

私も、スウェーデン方式に関心もってて、以前どっかで書いたけど、「自然免疫獲得説」は、個人的に、正しいと思っています。ただ、やはり、これだと、院内感染と現実に施設の感染は防げない。弱いので死んじゃうから。80%の潜伏的感染は、ヒトにとっては、金かかんないし、良かったと思うような輩居ようが、あくまでもコロチャン側にとっても一つの戦略だからです。

上さんが引用したCNN ニュースにも、「(スウェーデンの)ハングレン社会相という大臣が、『介護施設入居者の保護を強化することが大きな懸案事項の一つだ』と話す。リンデ外相が27日、英紙ガーディアンに「失敗例」として語ったのも、介護施設での死者の多さだった。」と、下の写真のそのしたの所にコメントあります。これからこれ急務ですよ。やはり検査で、白黒グレー分けないと。

今日、しらくさんMCの番組で、京大の医療以外の教授先生が、自粛ならぬ、「自制」で、乗りきろう、って訴えて、しらくさんには怒りを、コメンテータにも一人以外ほぼけちよんけちよんにやられてたけど、それがヒントで、以下つぶやきます。



Featured | World | USA | Business | Tech | Entertainment | Travel | Photo | Video | Odd News | Styl



園芸用品店で「距離を取って。ストップ、新型コロナウイルス」とかかれたベストを着用する従業員/JANERIK HENRIKSSON/TT News Agency/Getty Images

アルベルト氏はさらに、感染を最終的に止める道は集団免疫の獲得またはワクチンの供給しかなく、ワクチンが間に合う可能性は低いと指摘。ロックダウン(都市封鎖)の効果で感染拡大のカーブを緩やかにすることはできても、完全になくすことはできないと述べ、現状の医療体制で必要なケアが十分に提供できるなら、感染を遅らせるメリットははっきりしないと主張した。

つまり、2週ワンセット活動です。

○1週目は、外(便宜上通常の経済活動を「外」とします)でそれぞれ自制しながらいままでのやりかた。

○2週目は、自粛で、家庭にこもる。「内」とします。

○ワンセットの起点は安息日(キリスト教や我々無神教は日曜)。イスラムの人は、金曜(たしかメッカ脱出の日にはラマダンしないといけない)でしたっけ。これで、2ヶ月で9週ありますから、例:通常の経済活動(外としましょう。職種で内と外替わります)は、例えば、この4月からだと5月までなら、

○ 9週中4週外でいままでの経済活動(外)の44%。逆にしたら5週外で4週中で、56%ですよ。

だけど外中心の仕事の人は中にいたら、パソコンで集計したり、ファクスや電話対応したりで、いままでの40%は働けるようにすれば、5週の自粛中は、5週x40%で2週は外で働くぐらいの効率になって全部で7割働けるし、4週自粛の時は、40%で約16%+56%で約7割働ける。SOHOとか、オンラインで仕事出来る人は、その逆(外->中)でやっば7割でしょ。これが、年に6回(2ヶ月で9週間なので)だから効率はいままでの7割。もちろん収入も減りますけどね。

これって、医療現場にもいけそうです。倉持先生じゃないけど、常に、24時間勤務強いられたら、どんな強い使命感もっていても無理ですよ。(みんな、先生当直したら寝てるとか思ってるでしょ。寝てる時は、一人反省会ですよ。だから24時間)じじいの言い訳ではない。

コロナ軽症者から健常者までの医療もこれで隔週の待機(中)と外来(外)で、いけそうです。そのかわり、医療系免許持ちは、できるだけ参加すればいい。どうせ人間どっかでほぼ全員、かかりますし。

なぜ一週間かは、これまでのコロナの症状の推移から歴然です。かかったら、1週で大体わかるから。「かかったと思った人は、手をあげて、自己申告で即PCR。また、同時に継続的に絨毯爆撃で、ほぼ国民のインムノ抗体を順次測って行く。まず、普通の受診行動する人たちからでもいい。(ご自分の患者さんぐらいはかかりつけ先生が、患者は保険点数で、院内は先生自分もちでも)。IgGもっている人から、重症者のケアを受け持つようにして、(注意! この段階で、IgGの信憑性について議論しない。そんな暇ないし。それは後)その中でも、可及的に、この2週ワンセット方式(最初は無理だと思うけど)をとれるようにしていけば、長持ちする。病人みる余裕できれば、地域の経済も100%赤字は防げそう。しかも老人にもケアする人にもやさしいとおもいます。善意と医師法や看護師法、介護系の免許義務を押し付けるやり方は、大政翼賛的無茶苦茶思想です。それに、一般の人でも俺みたいに多動(ADHD)のケがあつて、閉じこもると発狂しそうな運動好きにもやさしいのでは。わたし、ジツとできるの45分ですよ。だから50分授業になって落ちこぼれたし。

この根本は、これが、神様の罰だとしたら、いまの競争・弱肉強食的な人間のやりかたを諦めろというのでしょ。なんと、アメリカの研究では、コロナも太陽コロナの発するある紫外線には弱いらしいじゃないですか。

だからこれは、洒落でなく、「コロナの矢」は人間への神からの警告ですよ。ある宗教ではたしかそう。ということは、ここで立ち止まって、いままでの7割の生活で満足して、原発ではなくて、太陽光を使えということでしょう。そっから考えてみると、最初の矢が、森林火災。かわいそうなコアラと、それを助けようとして、下着で、コロナを助けに入ったご婦人の姿は、目に焼き付いていますよね。それが丁度2/14ごろまでにオーストラリアに雨が沢山ふって、あの悲惨な森林火災が終わりました。これが第一の警告。その警告を人が無視したら、第二の「コロナの矢」が降ったのでは？

信心深かろうが、無神教だろうが、どうでも良い。「神の警告」は、真摯に受け止めるべきだと私は思います。